

鹿嶋さん

第 5 号
 発行日 平成 24年 7月15日
 発行先 新屋鹿嶋祭保存会
 発行責任者 伊藤 富美雄
 編集 保存会広報部
 事務所 日吉神社会館

「新屋の鹿嶋船」が国立博物館に展示

～第2回定期総会を迎えるにあたり～

新屋鹿嶋祭保存会 会長 伊藤 富美雄

6月10日、子供たちの健やかな成長と家内安全、無病息災、五穀豊穡を祈り、新屋の伝統行事である鹿嶋祭が今年の当番町である緑町町内会の実施計画に基づいて盛会裏に挙行されました。特に今年は神社のお計らいにより、お祓いを受けた後、新屋タクシー側に出口の坂道を造って頂きました。おかげでスムーズな巡行ができたことは、大変良かった事と神社にお礼を申し上げます。

7月29日に新屋鹿嶋祭保存会第2回定期総会を日吉神社会館で開催します。



総会では、理事と会員が5つの部会に所属した活動の成果と参加町内会にお願いした調査資料を参考にして今後の部会活動方針などの討議を行う予定です。

この度の部会活動の調査報告で判ったことですが、

「新屋の鹿嶋船」が、昭和59年に、伝え残したい民俗文化として認められ、国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）に民俗部門展示物として奉納、展示されております。また、平成6年から、秋田市のねぶり流し館にも展示されております。秋田県内はもちろんのこと全国から訪れる皆さんにこの伝統ある「鹿嶋流し」のお祭りを紹介されておることは誇るべき事であり、さらに保存会としては、鹿嶋船の保存展示だけでなく、鹿嶋祭そのものが後世に伝承される、秋田市の無形民俗文化財に指定される様、取り組む事の検討も必要であり、事業計画に取り入れたいと思っております。

今後の鹿嶋祭保存会のあり方、当番町内会実行委員会とのかわり方などについて、新屋町民の多くのご意見、ご指導、ご支援が反映できる保存会にしたいと思っております。多くの皆様の入会をお願いします。

(文中の国立歴史民俗博物館は、現在は当館のリニューアルによってのため閉室しており、平成25年3月オープンを予定しています。)



有志会員五四名で活動展開
 新屋鹿嶋祭保存会は、新屋町内会（二〇町内会長）、栗田養護学校、そして保存会に賛同する有志、

新屋郷土会関東在住者二名を含む五四名が会員です。

「保存会」では五つの部会（事業部、広報部、調査研究部、製作部、実技部）を設けて活動を進めてきました。鹿嶋祭が地域に根ざした伝統行事として末永く町民と子供たちから愛され、新屋の歴史と文化を後世に伝えようという会員の情熱が交錯する活動を展開しています。

調査アンケートと写真収集

今年の鹿嶋祭において保存会として次のことを参加町内会、養護学校にお願いしました。

- ① 鹿嶋船、鹿嶋人形などの製作期間、
- ② 搭載物（キャラクター人

形)のテーマ、メッセージなどの紹介、③鹿嶋船製作にあたり工夫や苦労されたところ、④鹿嶋祭に参加した大人、子供などの人数、⑤「鹿嶋人形流し」の実態調査、(奉納を終えて町内に戻った鹿嶋船から鹿嶋人形を船に乗せて川や海に流すという神事、祭事。河川環境保全の配慮から自粛傾向にある。)⑥「新屋鹿嶋祭保存会」への意見、要望など。また、①各町内(養護学校)の鹿嶋船の全景写真(前、横、後姿)、②鹿嶋船の製作過程の写真提出等です。

鹿嶋祭で郷土を語る場

鹿嶋祭を終えた今、保存会事務局には各町内、学校から調査アン

ケートの回答、鹿嶋船の写真が続々と寄せられております。これらの提出された資料、写真などは、今後の保存会活動の貴重な財産として活かしていきます。同時に、「講演会」「写真展」などに活用していく予定です。

各町内会の力作である鹿嶋船を改めて写真をご覧になりながら、鹿嶋祭を通じた「郷土を語り合う交流の場」を設けていきます。

そのほか来年の鹿嶋祭までに、鹿嶋船コンクールや審査会、鹿嶋船の展示場、鹿嶋祭のポスター作成、保存会のホームページ開設、鹿嶋の歌と太鼓の練習など企画・取り組みなど検討しております。

来たれ保存会会員に

保存会では、こうした活動を支える会員を募集しています。特に新屋の伝統と誇りを守ってこれた諸先輩(新屋衆)、そしてこれからの新屋地区を支えていく中堅、若手の会員加入が待たれるところです。

鹿嶋祭ルーツを探る旅へ

秋田県内には主に雄物川水系を中心に二〇を超える地区で鹿嶋祭が行われおり、鹿嶋祭のルーツを探る研究なども行っていきます。かつては同じ鹿嶋祭を行っていた隣の勝平地区とは、郷土の昔話や歴史や文化を伝承する活動の交流も始まっています。

▼上表町の鹿嶋船製作過程を紹介



正面舳先にはお面が特徴



横からみた鹿嶋船



後から見た搭載物



鹿嶋流し用の舟



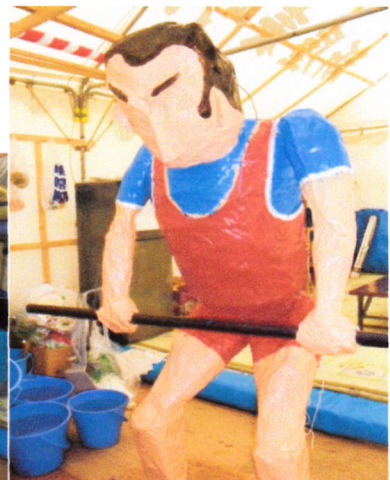
↑人形の基礎部分作成中



↑針金で胴体を造り、紙を貼った。



↑さらに紙を貼って肉付け
関節部分が曲がるように



↑色を塗って完成間近の人形



↑「ガツギ」をミゴ縄で巻いていく
↓前日の作業で、みんな載せてしまう



↑鹿島祭り 当日朝、御幣・船首旗・
櫓・太鼓・舵棒・牽引ロープなどを付
けて、鹿嶋船の完成。

* 毎晩、作業が終わった後の直会 (な
おらい) は、町内懇親の場でもある。
* ホームページ: <http://ksymbol55.boy.jp>

